

東徳島病院におけるDOTSの取り組み

独立行政法人国立病院機構 東徳島病院

6-2病棟（結核病棟）

看護師 大久保和代

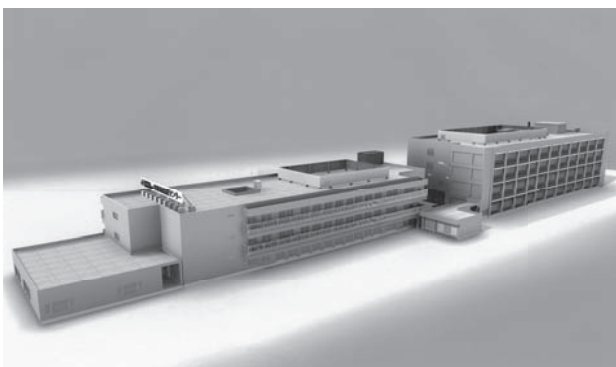
結核看護の目的は、「治療を成功させるために治療完遂まで患者の服薬を見守り、励まし、服薬を終了すること。結核の蔓延を防止し多剤耐性結核を作らないこと。」にあります。

当院の取り組みについて、Sさん（男性・70歳代）を例に紹介します。

Sさんは入院当初6ヶ月間の抗結核薬治療の予定でした。4か月間の入院生活は問題なく経過、退院後は当院から50kmほどのところに居住していましたが、定期的に当院へ受診していました。病棟からは2週間に1回、電話による服薬支援と外来受診時の服薬支援を行っていました。しかし、軽度の耐糖能異常があり、服薬期間が3ヶ月間延長となりました。服薬開始後6ヶ月経過したとき、本人から電話で「薬はもう終わりだと思っただけで、まだ飲むんかいな。5月いっぱいあるぐらい薬くれたんじゃけど。」と連絡がありました。主治医に報告し、確認したところ、主治医からは服薬の延長は説明済みだったとのことで、確認内容を本人に伝えることで、服薬中断を防ぐことができました。そして、9ヶ月間の服薬が終了する日、「Sさん、長い間の治療、ご苦労さまでした。これから声が聞けなくなるのはさみしいですが、終了の日を迎えることができ私も嬉しいです。」最後の電話をしました。Sさんからは「終わったなあ。長いことありがとう。」との言葉をいただき、Sさんにとっても私達にとっても嬉しいことでした。

1. 東徳島病院の概要

当院は呼吸器疾患、重症心身障害の政策医療と循環器疾患、腎疾患等の医療を担う360床の地域の中核病院です。結核病床は陰圧病床23床を含めた50床で徳島県の結核治療拠点病院です。来夏に新病棟が完成する予定で、現在新築工事が行われています。外来・入院患者はじめ職員も完成を心待ちにしています。



2. 東徳島病院におけるDOTSの実践

1) 院内DOTS

結核と診断されたり、あるいは疑いのある患者は結核病棟へ入院します。患者は徳島県内全域をはじめ近隣県から受け入れています。高齢者が多く、このため基礎疾患の存在や認知機能の低下、ADLの低下など

多くの問題が存在しています。

結核治療の原則は正確な診断・治療が重要です。結核と診断された患者はほぼ100%で抗結核薬治療が開始になります。当院では平成13年より院内DOTSを導入しました。試行錯誤を行い現在も改善を加えながら実施しています。その手順は、①医師による処方 ②薬剤師・看護師による服薬の説明 ③3段階に設定した服薬支援④毎週火曜日に行う他職種との病棟DOTSカンファレンス（写真） ⑤退院に向けた服薬自己管理指導 ⑥退院後の服薬支援となっています。また、2か月に1度、県内保健所保健師、関係者によるコホート検討会を行って、入院・通院中の患者の状態の把握、問題点の抽出、対策などを話し合い、追跡調査を行っています。



2) 退院後の服薬支援

入院中は院内DOTSにより、治療中断例はありません。しかし、院内DOTS導入後の数年間は、退院後の服薬管理は保健師の訪問のみになっていること、高齢の患者が多いという背景や当院以外で通院治療を受ける患者に対しては、服薬継続の把握が十分とは言えませんでした。そこで平成18年に『メールによる服薬支援（以下、e-DOTSとする）』を導入しました。しかし患者の年齢層が高く、メール操作の煩わしさがあるという問題点が気がつきました。そこで、翌年には、『電話による服薬支援（以下、t-DOTSとする）』を追加し、個々の患者に合わせた服薬支援方法を選択することにしました。これにより、メールを使用しない高齢者にも服薬支援が広がり患者の服薬に対する不安の軽減が図れ、院内DOTSの効果も得られました。退院後当院への通院の有無を問わず行っています。

【手順】退院前の病棟DOTSカンファレンスで患者個々に応じた服薬支援方法を決定します。受持看護師はカンファレンスの内容をもとに退院前に患者・家族と相談しDOTSチェックリストを記入します（表1）。チェックリストの項目には、患者プロフィールのほか、内服薬の種類や容量、服薬期間、服薬支援方法・回数を記入します。連絡の回数は月1～4回ですが、患者の生活に合わせて途中で変更するなど個別に設定しています。そしてその裏面には、実際に行った服薬支援の日時、相手、内容を記入していま

(表1)

退院後 DOTS チェック用紙 (表面)	
患者 ID	氏名 様
主治医	看護師
入院期間	年 月 日～年 月 日
服薬期間	年 月 日～年 月 日
	服薬期間
使用薬剤名	INH ()錠 ～
	RFP ()錠 ～
	EB ()錠 ～
	PZA ()錠 ～
	その他
主な服薬支援者 ()	
服薬確認方法 (t-DOTS e-DOTS)	
確認の間隔 (1回/1W・1回/2W・1回/4W・その他)	
変更時 ()	
受診状況 ①東徳島病院 ②他の医療機関	
E-メールアドレス	TEL

す(表2)。チェックリストに従ってメールまたは電話で患者と連絡をとり、返信がない、連絡が取れない場合は日時を変更し再度確認を行います。再確認もできない場合は、管轄保健所・保健師に連絡し、保健師からの働きかけや家庭訪問を行ってもらい治療中断を防いでいます。

t-DOTS・e-DOTSの実践は入院中から退院後、治療完遂までの期間、患者との人間関係を大切にしながら結核看護の目的に近付いているのだと思います。

3. これからの服薬支援

当院ではt-DOTS・e-DOTSの対象者では治療中断例はありません。しかし、この服薬支援を希望されない患者の状況の把握は困難となることがあります。そのような患者に対しては保健師との連携を密にし、より患者に寄り添った服薬支援を行う必要があります。これに向け現在、保健師との連携のためのクリニカルパスを作成中です。また、薬剤科でも、地域の調剤薬局と連携促進を図ろうと、病棟内DOTSカンファレンスに院外の薬剤師が同席し患者支援についての情報交換の場となっています。

医療機関・保健所・地域がひとつの輪になり、よりよい環境の中で患者の服薬支援ができるような体制を作っていくことが私達の課題であり、結核によって苦しむ人々がいなくなるような世界になるように努力していくことが保健医療従事者共通の課題だと考えます。

(表2)

t-DOTS・e-DOTS 経過表 (裏面)				
日時	対応者	内容*	次回予定	サイン

* 内容には病状・服薬・悩み・副作用など患者との連絡内容を記入する。